

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 平野区

学 校 名 喜連北小学校

学校長名 廣岡 浩

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 62名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○平均正答率は、大阪市と比べ、国語は12ポイント、算数は12ポイント、理科は14ポイント下回った。大阪府と比べても国語12ポイント、算数13ポイント、理科14ポイント下回っている。また、全国平均と比較しても、国語では13.6ポイント、算数で13.2ポイント、理科については19.3ポイント下回っている。

○無回答率については、大阪府と比べ国語では4.2ポイント高く、算数では4.3ポイント、理科では2.6ポイント高かった。全国との比較では、国語で4.3ポイント高く、算数で4.1ポイント、理科で3.1ポイント高いという結果になった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「言語の特徴や使い方に関する事項」で特に平均正答率が低く、課題があると思われる。学習した漢字を文章の中で正しく使ったり、話し言葉と書き言葉との違いを理解することが難しい。まずは、普段から繰り返し練習を積み重ねることで、漢字の定着を図ることが大事である。また、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定することによって話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き継続させる言葉の働きに気づかせるようにする。

〔算数〕「数と計算」「図形」で特に課題がみられる。「数と計算」では、2つの数の最小公倍数を求めることが十分理解できていない。「図形」では、三角形の意味や性質を基に構成の仕方について考察し記述するということが難しい。今後、辺の長さや角の大きさなどに注目し、作図の仕方について筋道を立てて説明したりすることができるように粘り強く指導することが難しい。

質問紙調査より

「将来の夢や目標をもっていますか」の問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が73.7%で大阪府の77.9%、全国の79.8%をやや下回った。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童が57.4%で大阪府は62.6%、全国は71.1%と大きく下回っている。また「学級の友達との間で話し合おう活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の問いには「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が54.1%で、大阪府の77%、全国の80.1%を大きく下回った。今後「主体的・対話的深い学び」の実現に向けての取り組みをさらに推進していく。

今後の取組(アクションプラン)

○国語・算数の習熟度別少人数授業では、引き続き年間指導計画の見直しや効果的な学習形態の工夫をさらに務めていく。

○学習データ配信等を積極的に活用し、各教科の基礎的・基本的内容の定着に努める。

○学習意欲と学習習慣を向上させる指導の徹底化を図る。そのために家庭への啓発と読書活動の推進、家庭学習の見直しを図る。